

第2学年 道徳学習指導案

1 主題名 男女の敬愛

資料名 『夢―「耳をすませば」より』（教育出版 『こころつないで③』）

内容項目 2-(4)男女は、互いに異性についての正しい理解を深め、相手の人格を尊重する。

2 主題設定の理由

- 今日、男女が平等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会の実現が求められている。互いに異性についての正しい理解を深めることは、互いに相手のよさを認め合うということである（『中学校学習指導要領』より）。
しかし、中学生の時期になると、異性への関心が高まり、意識的に異性を避けたり、逆に異性の関心を誘ったりするような行動をして、異性間で誤解を生んでしまうことがある。そこで、この時期に、男女間における関係が基本的に同性間と変わらないことや、相手に対する理解を深めたり、信頼と敬愛の念をはぐくみ、互いに向上し、社会の対等な構成員として成長しようと考えたりする機会を設定することは、大変意義深いと思われる。
- 本学級の生徒は、明るく前向きに物事に取り組む姿勢が見受けられ、積極的に学校行事や授業に参加することができる。しかし、小学校から築いた人間関係に慣れすぎ、男女間わず互いに思いやりに欠けた言動をとってしまうことがある。事前にとったアンケートの中でも、「積極的に発表する、意見をはっきり言う、優しい」などと、互いに異性のいいところを挙げることができているが、反面、「しつこく相手が嫌がることを言う、人のことを考えずに言うてくることもある」といやだと思うところを挙げている。また、「将来のパートナーに期待すること」では、男女とも「優しくて思いやりがある人、包容力がある人、話がおもしろい人」を上位に挙げるなど、考えの相違があまりないことが見受けられた。しかし、女子にはない「家事が上手な人」が、男子の2位に挙がっており、それぞれの意識下に「家事は女性がするもの」という考えがあることが伺える。そこで、男女の別なく協力し合い、尊重し合う関係の大切さに気付かせたい。
- 本資料は、主人公の^{しずく}雫を通して、雫が夢に向かって努力する聖司に対して感じる“音”をキーワードにして考えさせることができる。その“音”は、単に相手を好きだから聞こえるドキドキする胸の音にとどまるのではなく、相手に対する「尊敬」や「憧れ」の気持ちが含まれている。また、身近に尊敬や憧れを感じる人に出会ったことがないか。と、自分自身を振り返って考える場面を設定することで、互いに夢に向かって向上し合おうとする人間関係を築くことの大切さに気付かせることができるものである。
指導に際しては、異性に関心をもつことは自然なことであり、尊敬と理解と誠実さに基づいた人間関係の素晴らしさや、相手の目を意識することで、自身を向上させようと努力することの大切さを伝えたい。また、友達の考え方に触れ、自分の考えを広げたり、深めたりすることができるように個人・班・クラス内へと交流を広げる場を設定したい。

3 わらい

資料『夢』を用いた交流活動を通して、主人公が相手のことを理解し、尊敬（敬愛）している心に気付かせ、互いに向上し合う人間関係を築いていこうとする心情を育てる。

4 準備 資料『夢』、あらすじの絵、学習ワークシート、事前アンケート結果

5 学習指導の過程

段階	活動と内容	教師の支援
導入 展開 前段	<p>1 アンケート結果を知る。</p> <p>(1) クラスのアンケート結果を知る。</p> <p>① 異性についていいなと思っていること</p> <p>② いやだなと思っていること</p> <p>③ 異性への感情の表情図</p> <p>(2) 将来のパートナーに選ぶ人ベスト3の男女の比較を知る。</p> <p style="text-align: center;"><女子> <男子></p> <p>1位・優しい・思いやり ・優しい・思いやり</p> <p>2位・包容力 ・家事の好きな人</p> <p>3位・話のおもしろい人 ・包容力、話のおもしろい人</p> <p>2 資料を読み、雫の気持ちを考える。</p> <p>(1) 資料の補助説明を聞き、読む。</p> <p>(2) めあての確認をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center; margin: 5px 0;">雫が感じた聖司のよさについて考えよう</div> <p>(3) 資料の内容を振り返り、確認する。</p> <p>(4) 聖司の絵を見たときに雫が聞こえた音について考える。</p> <p>・ドキドキ（胸きゅん）・かっこいい</p> <p>・ザワザワ・ドカーン・キラキラ</p> <p>・優しい感じの音・心に響く音</p>	<p>○ 授業への興味や関心を持ち、話し合いやすい雰囲気を作るために、アンケート結果を知ったり、予想したりさせる。</p> <p>○ 男女の意識に相違がないことや、協力し合う大切さに気付かせるために、アンケート結果にほぼ差がないこと、「家事の好きな人」が、男子にあって女子にないことに着目させる。</p> <p>○ 資料を理解することができるように、補助説明、内容確認を行う。</p> <p>○ (5)の活動につなぎ、生徒が雫の気持ちをイメージしやすくするために、聖司の絵を見た雫に聞こえた「音」を考える場面を設定する。</p>
展開 後段	<p>(5) 雫の気持ちを考え、理由とともに交流する。</p> <p>① 聖司にドキドキした雫の気持ちを考える。</p> <p>② 個人→班→クラスの順で交流する。</p> <p>・ 絵に惹かれた。→共感</p> <p>・ 絵が上手だったから、すごいなあと思ってドキドキした。→感動、尊敬</p> <p>・ 聖司が夢に向かって努力する姿を知って、かっこいいなあと思ってドキドキした。→好き、あこがれ、もっと相手のことを知りたい</p> <p>・ 自分にはできないことをできて、すごくきれいな絵を描いているのを見て、すごいと思った。</p> <p style="text-align: right;">→あこがれ、尊敬</p> <p>③ 考えをキーワードでまとめる。</p> <p>共感・感動・尊敬・好き・あこがれ</p>	<p>○ 「あこがれ」や「尊敬（敬愛）」の気持ちからドキドキしたことに気づかせるために、雫の気持ちを考える場面を設定する。</p> <p>○ 「あこがれ」や「尊敬」の気持ちが、雫の向上心につながったことに気付くことができるように、班内で出た考えを、クラス内で交流する場面を設定する。</p> <p>○ 生徒が考えを整理したり、雫の向上心につながったことに気づかせるために、クラスで発表された言葉をキーワードでまとめた場面を設定する。</p>
終末	<p>3 自分を振り返る。</p> <p>(1) 夢に向かって努力している人の姿を見たことがないか考える。</p> <p>(2) 教師の説話を聞く。</p>	<p>○ 自分に置き換えて考えることができるように、資料をはなれて考えさせる。</p>

交流
場
面

平成 22 年度男女共同参画教育実践事例

中学校 第 2 学年 道徳「男女の敬愛」

1 実践前アンケート結果

アンケート対象 2 年 4 組男子 18 名、女子 17 名 合計 35 名

- ① 異性のここがいいなあと思うところ
 - ・ 意見をはっきり言う。 ・ いつも楽しそう。 ・ 優しい。
 - ・ 積極的に手を挙げて発表する。 ・ 気を遣ってくれる
- ② 異性のここがいやだなあと思うところ
 - ・ いやなことを言うところ。 ・ しつこい。 ・ うるさい
 - ・ 人のことを考えずにズバズバ言うところ
- ③ あなたは将来、どのような人をパートナーにしたいですか。
 - <女子> 1. 優しくて思いやりがある人 2. 包容力(相手の欠点や失敗にこだわらず、広い心で受け入れる)のある人 3. 話のおもしろい人
 - <男子> 1. 優しくて思いやりがある人 2. 家事の好きな人
 - 3. 包容力のある人、話のおもしろい人

2 授業の様子

- <導入> アンケート結果を推測することで、生徒たちは興味・関心を高めることができたようであった。男子が思う女子のいいところ・いやなところ、女子が思う男子のいいところ・いやなところでは互いに反応し合いながら、結果的に男女とも同じような意見を出していたことに気付くことができていた。
- <展開前段> 資料「夢」のオリジナルである『耳をすませば』は、生徒たちが知っている題材であったために、資料を読む前に主人公の名前を出したところで気づいた生徒が見受けられた。また、“音”について考える場面では、「ザワザワ・ドキドキ」など好きの感情を表現するような音、「フワフワ」何かのアイデアが出る感じ「モヤ～・ミシミシ」物足りない感じ、新しいことに挑戦したいという気持ちなどさまざまな考えを出すことができていた。
- <展開後段> 展開前段で出されたさまざまな音の中から、「ドキドキ」という音を選んで、「どんな気持ちから、雫は聖司にドキドキしたのだろうか？」と、個人で考えた後、班の友だちと「ドキドキの気持ちの奥を考えてみよう」と交流場面を設定した。生徒たちの考えとして、ドキドキした理由は「今までになかった感情をもったのではないか、聖司君は雫が必要としているものをもっているからではないか、聖司が描いた絵の迫力(聖司の才能)に対してドキドキしたのではないか」などという意見がでた。班の交流では「聖司に夢を叶えてもらいたい、共感、尊敬、一緒に何かをしたい、うらやましい」などと本時のねらいにせまる意見の交流をすることができたようであった。
- <終末> 「何かに向かって努力している人を見たことないですか。どう思いましたか。」の設問に対し、身近で部活動に励む異性を挙げて「体を壊さないようにがんばってほしい。目標をもってやるのはすごいと思うので、そういう風になりたい。」と記入する生徒がいた。しかし、「すごい、カッコいい」とほとんどの生徒が書いていたにもかかわらず、自分に振り返って考えることができた生徒は、3名だけに至ってしまった。

3 授業後の生徒の感想

- ・ “音”について考えるのは楽しかった。音だけで、クラスみんながいろいろなことをイメージしているのがわかっておもしろかった。
- ・ ドキドキ=好きという感情だけでなく、その裏には尊敬や憧れの気持ちがあることに気づいた。
- ・ 私も雫が聖司を尊敬して向上しようと思えたように、あこがれている先輩のように部活をがんばって、上手になりたい。

4 授業後の実践

授業前のアンケートから、「家事の好きな人」が、男子の上位にあって女子にはなかったことから、男女の別なく互いに協力しあって社会を形成する大切さに気付かせたいと考えた。そこで、学級活動の時間に「男女の理解と助け合い(男女共同参画社会の推進)」を扱って指導を行った。しかし、単発の授業だけで意識の変容を図ることは難しいと考えられるので、継続的な指導が必要であると思われる。